

政策研究大学院大学 平成27年度夏季

農業政策短期特別研修



農業政策短期特別研修の 実施について

I 研修の趣旨・目的

地域独自の「攻めの農業政策」を企画・立案する人材を育てる

国立大学法人政策研究大学院大学(GRIPS)では、政策に関する専門的知識及び技術に加え、高度な政策構想力と行政運営能力を有する人材の養成を行っています。この一環として、農業を核とする地域経済活性化のための政策(以下「農業政策」)の企画・立案、執行を担う人材を養成する短期特別研修を実施しております。この研修は、農林水産物やその加工品の高付加価値化、販路の拡大、グリーンツーリズムの展開などを支援する、地域独自の「攻めの農業政策」の企画・立案、執行を担う実践力をスピーディに身につけていただくことを狙いとしています。

このため、夏季の3週間という短期間に、地域の活力向上のため喫緊の課題となっているテーマについて、集中的に講義、現地調査、グループ討議等を行うプログラムを提供します。研修の講師は、農業政策やフードシステム論を専門とする大学教授・研究者や第一線でご活躍の農業、食品産業関係者のほか、中央官庁の職員が務めます。また、本研修では、研修終了後も情報交換等を行えるよう、研修生のネットワーク形成にも努めます。



II 研修の特徴

魅力的な政策の企画・立案力、遂行力を磨くために

地域にねざしたユニークで実践的な「攻めの農業政策」の企画・立案力、遂行力を短期間で身につけるため、本研修のプログラムは4つの特徴を備えています。



- 1 政策研究・立案のプロフェッショナルによる実践的な講義
- 2 フードビジネスに携わる各界トップランナーとの交流
- 3 マーケット最前線の現地調査実施(販売、流通、製造)
- 4 全国自治体の将来の農業政策を担う職員との意見交換

III 研修の進め方

受講される方は、まず研修開始前に、それぞれの地域の「攻めの農業政策」に関する研究テーマを、個別に選んでいただきます。研修では、選ばれたテーマに関する政策提案を取りまとめることを念頭に置きながら、講義・現地調査・グループ討議等のプログラムに参加していただきます。研修日程の最後には、ご自分が選ばれたテーマに関する政策提案を発表していただく予定です。

農業政策短期特別研修 時間割

■現地調査:食品の販売、流通、製造の現地調査を通じ、政策のターゲットを検討

①マーケット最前線から、到達目標のレベルを考える

■テーマ別の集中演習:一日一つのテーマについて集中的に学習・討議

①政策担当者から関連政策についての講義、②民間事業者等からビジネスの最前線についての講義
③講義を踏まえたグループ討議を行う政策検討ワークショップを一貫して行う、総合的なプログラムを実施



(平成26年度の時間割) ※平成27年度は、平成26年度の時間割を元に編成する予定です。決定次第ホームページに掲載します。

	1限(9:00-10:30)	2限(10:40-12:10)	3限(13:20-14:50)	4限(15:00-16:30)	5限(16:40-18:10)	
1週目	7/22		ガイダンス	自己紹介/個別テーマ発表		
	23	「農」をどう捉えるか①	農業政策の企画立案に際しての基本スタンス①	ファシリテーション		
	24	「農」をどう捉えるか②	農業政策の企画立案に際しての基本スタンス②	現地調査① アンテナショップ/百貨店		
	25	フードシステム論		現地調査② 食品メーカー工場		
	26		H25年度修了生報告会	第1週のふり返り・テーマ別グループ討議 1)		
2週目	28	マーケティング論(10:00~12:00)		経営戦略論	企業の農業参入の取組	
	29	現地調査③ 物流センター/量販店		FCP(フード・コミュニケーション・プロジェクト)の概要		
	30	農業福祉の取組	地域産品の販路拡大の取組	農産物・食品輸出の取組	最近の食料・農業・農村をめぐる情勢	
	31	6次産業化に関する施策	6次産業化の取組	6次産業化に関するグループ討議		
	8/1	食の安全・消費者の信頼確保に関する施策	食の安全・消費者の信頼確保の取組	食の安全・消費者の信頼確保に関するグループ討議		
2	中間報告					
3週目	4	グリーン・ツーリズム、都市農村交流に関する施策	グリーン・ツーリズム、都市農村交流の取組	グリーンツーリズム、都市農村交流に関するグループ討議		
	5	担い手育成、産地競争力強化に関する施策	農業法人の取組	担い手育成、産地競争力強化に関するグループ討議		
	6	都市農業に関する施策	都市農業の取組	都市農業に関するグループ討議		
	7	研究のブラッシュアップ、補強調査日2)				
	8	政策提案の発表				
	9	グループ討議 3)		グループ討議 3)	修了式	

(注) 1) 個別テーマごとのグループで意見交換。 2) 追加ヒアリングや個別相談を実施。 3) 政策提案についてグループで意見交換。結果を踏まえて最終の仕上げ。

農業政策短期特別研修

- 研修実施期間 —— 平成27年7月21日(火)～8月7日(金)
- 研修場所 —— 原則として、政策研究大学院大学(東京都港区六本木7-22-1)において行います。
- 研修の対象者 —— 農業政策の企画・立案、執行を担う都道府県又は市町村の職員を対象とします。
現職が農業関連部門であるかどうかは問いません。
積極的な学習意欲と高い企画・立案能力を有し、将来当該自治体の農業政策を担うことが期待できる者であれば、年齢・役職は問いません。
なお、本研修の主たる対象者は自治体職員ですが、農業関係団体等の職員やシンクタンクの職員も受講可能です。
- 定員 —— 25名(予定)
- 受講料 —— 実費をご負担いただく予定です。
なお、宿泊される場合の宿泊費、大学や現地調査場所までの交通費は別途必要です。
- 出願期間 —— 平成27年3月16日(月)～5月15日(金)
選考結果通知 平成27年5月28日(木)頃
- 出願方法 —— 所定の申請書類のほかに、所属機関の長の推薦状等が必要です。
出願資格や必要書類等については、募集要項をご覧ください。
- お問い合わせ先 —— 政策研究大学院大学 農業政策コース
コースディレクター・教授:神井 弘之 事務職員:橋本 亜伊子
[住所]〒106-8677 東京都港区六本木7-22-1
[Eメール]nougyou-seisaku@grips.ac.jp
[電話]03-6439-6333(直通) [FAX]03-6439-6334
[HPアドレス] <http://www3.grips.ac.jp/~agriculturalpolicy/>

■ 交通案内



農業政策短期特別研修



平成26年度 農業政策短期特別研修 アンケートコメント

研修全体についてのコメント

- 農政の歴史から、政策を進める上でポイントとなるフードシステム論等の専門的な講義、また、各政策の説明後にその政策のトップランナーの事例があるなど、農業分野を一環して学べる研修内容は他に類を見ない非常に良い研修でした。
- 自分が仕事をする際、目先の仕事に追われ、この仕事は何のために、誰のためにやっているのかといった点を改めて考える機会となった。
- 研修中、常に官民の役割分担という点にも意識をして聞くことができ、改めて行政としての役割について考える機会となった。
- 農業・食品産業における、各分野のエキスパートによる最前線の情報を踏まえた講義や、6次産業化、企業の農業参入、農業福祉及び都市農業等の分野における我が国のトップランナーといえるような農業法人や事業者の取組事例を聞くことができ、たいへん参考になりました。
- この3週間、とことん仕事への向き合い方、自分の仕事の意義について考えることができました。日々仕事に追われていて、このように「そもそも論」についてじっくりと考え、向き合うことがなかったので、本当に貴重な時間を過ごすことができました。



ファシリテーションのトレーニングを評価するコメント

- グループ討議は、様々な意見を聞くことで、考える幅が広がるだけでなく、議論をどう進めるのか考えるのに非常に良い機会となりました。日常業務でも多くの会議がありますので、ファシリテーションや出席者としての役割を意識しつつ取り組みたいと考えています。また、研修の場以外の交流も大変貴重な時間となりました。日を追うごとにつながりが深くなっていくのを感じました。今後の大きな財産だと思います。
- 職場の同僚や後輩たちに伝えるべき知識や手法をたくさん得ることができ、今後の業務に間違いなく生かすことのできる研修でした。
- 初めてファシリテーションを行い、お互いの考え方の違いを理解しながら、建設的な意見を集約することが出来るということを経験し、グループ討議の重要性を感じました。今後、県に戻ったときにはぜひ業務に取り入れたいと思いました。
- グループ討論をする研修は多く存在するが、グループ討論のやり方を学ぶ場はなかった。
- ファシリテーションによるグループ討議の機会が多く、回を重ねるごとに話し合いの要領を得ることができ良かったと思います。たくさんの意見がひとつの流れになり合意形成につながっていく様子を体験し、大変有効な手段だと実感することができました。



農業政策短期特別研修

視野を広げる効果を評価するコメント

- 色々な考え方に触れることができ、その都度自分の立っているところが変わっているような、考えが旅行しているような感覚になりました。自分のしている仕事について、少し客観的に見ることができるようになった感じがしています。
- 東京だからこそ現地調査ができる高級志向の百貨店や、各都道府県のアンテナショップ等の現地調査も参考になった。



ネットワーク構築を評価するコメント

- 全国の都道府県、市町村及び民間事業者において様々な業務に携わっておられる方々と、机を並べてともに学び、考え、情報交換できたこと、何より、今後、これらの方々と情報交換をできるネットワークづくりができたことは、私にとって貴重な財産になりました。
- 全国各地に『同志』ができたような心強さを覚えています。刺激を受け自分の至らなさを情けなく思ったり、同じような悩みを持っていることを知り慰められたりと、この出逢いが何よりの成果であったと思っています。

研修全体の満足度（5段階）

- プログラム終了後に研修を評価するアンケートを実施しました。

平成25年度 参加者の評価

平成26年度 参加者の評価

平均 **4.96**平均 **4.73**

5 = とても満足 4 = まあ満足 3 = ふつう 2 = やや不満 1 = 不満

【農業政策短期特別研修 これまでの派遣元】

北海道、岩手県、茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県船橋市、新潟県、石川県、福井県、長野県東御市、岐阜県、静岡県、三重県、兵庫県、和歌山県、和歌山県九度山町、島根県、岡山県、山口県、香川県、愛媛県、愛媛県大洲市、高知県、福岡県、福岡県大木町、熊本県、鹿児島県、沖縄県、みずほ総合研究所

